

○ 学生と市長との意見交換会の内容要旨

令和元年10月7日 香川大学

テーマ1 今後住みたい高松とは

No	御意見等	回答
1	<p>できることなら高松に住みたいと思っていたが、結果として県外に就職することとなった。</p> <p>就職活動を通じて感じたことであるが、就職したい企業、特に情報系の企業が少ない点が残念である。</p>	<p>進学・就職で県外へ転出する人口が多いのが、若者が定着しない大きな原因となっている。</p> <p>実際、18歳の進学者のうち、8割の人が県外へ転出している状況である。</p> <p>高等教育機関の受け皿がもともと少ないこと、また、仮に県外進学者も、就職の際Uターンで戻ってきてもらえればいいのだが。</p>
2	<p>高松は都会と比較しても、生活基準がそれほど劣るとは感じておらず、住むには困らないと思うが、就職を考えると、地元にもいい企業があるとは思いますが、知る機会があまりなく、就職先は少ないと感じる。</p>	<p>高松は企業の支店が多いのだが、本社が県外にあるため、就職先として高松を選んでもらえない。</p> <p>一方で、ユニークでニッチ産業的な中小企業は多くある。特殊な技術を持ち、全国シェアは高い企業が多くあるが、大手企業と比べられると、中々選ばれないようである。</p> <p>皆様の御意見を伺って、このような状況を少しずつでも改善していかなければならないという思いを、一段と強く持ったところであり、県とも協力しながら取り組んでまいりたい。</p>

No	御意見等	回答
3	<p>今後住みたい街ということで「若者から選ばれるまち」を戦略の目標としていることについては同感である。</p> <p>香川大学では「学生の対流プログラム」があり、東京圏の大学生と香川大学生が交流する機会がある。</p> <p>東京圏の学生と一緒に勉強する中で、（高松にずっと住んでいる）私たちが中々気づかないような高松の魅力を再発見した。</p> <p>このような取組について御意見を伺いたい。</p>	<p>外からの視点をきっかけに、地元の魅力を再発見することは重要であり、そのような機会を与えてくれる香川大学の対流プログラムは意義のある取組であると感じている。</p> <p>高松のことを周りの人に知ってもらうことは重要であり、そのためにはまず自分が知らなければならない。</p> <p>皆様のような若い世代の方々が、自らの体験等を通じて自分が住むまちの魅力を知ってもらい、情報発信していただければ、それが若者から選ばれるまちをつくることにもつながると思うので、皆さんの力に大いに期待しているところである。</p>

テーマ2 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

No	御意見等	回答
1	<p>高松はコンパクトで自然も多いまちで、商店街を中心に自転車で行ける範囲に都市機能が集約しており、便利だと感じる。</p> <p>また、交通の便も良く、公共交通についてある程度満足している。</p> <p>街並みもきれいだと思う。</p>	<p>街並みや公共交通について、評価を頂くことが多く、学生の皆様からも評価してもらい、心強く思う。</p> <p>高松の中央商店街のように、大規模な商店街が活力をもってある程度運営されているのは、高松と同規模の地方都市を見ても珍しい例である。</p>

テーマ1、テーマ2以外で

No	御意見等	回答
1	<p>自動車だけでなく、自転車の交通マナーの悪さが気になる。商店街でスピードを出して運転していたり、周りをあまり見ておらずと怖いと感じる時がある。</p>	<p>交通マナーの悪さを改善するため、県を中心に力を入れて対策をしているが、一人一人の意識が大切であり、周知啓発に更に取り組んでまいりたい。</p>
2	<p>プロスポーツチームの応援は、地域の愛着のためにも重要だと考えるが、その点について高松市の考えをお聞かせ願いたい。</p>	<p>トップスポーツチームの支援は、文化芸術の大きな柱だと位置づけている。</p> <p>サッカーのカマタマーレ讃岐とバスケットボールのファイブアローズは、高松市も出資をしており、経営に参画しているが、残念ながら成績は低迷している状態で、それに比例して市民・県民の盛り上がりも低迷している。</p> <p>今後、市民・県民が盛り上がるよう、県とも相談して支援を続けたいと考えている。</p>